

城山産業

小・中型モーター用コア

専用工場棟建て替え

高精度生産体制を構築

城山産業（本社大垣市釜苗4、竹中幸三社長、電話0584・89・1010）は、本社工場内の小・中型モーター用コア（電磁鉄芯）専用の工場棟を建て替える。老朽化しているため、建て替える機に、今まで以上に高精度な生産体制を構築し、同製品の受注拡大を目指す。

（大垣・近藤直樹）

受注増と取引先開拓へ

同社は、本社工場で建て替えるのは、ハ棟。平屋建てで建物面モーター用コア、第2イブリッド車や小型発積1500平方メートルの工場（大垣市外野3）電機、工作機械向けな模。でトランス用コアを生産している。どの小・中型モーターの約45年が経ち老朽化しているため、早く用コアを生産する工場化しているため、早く

れば年内にも取り壊しにかかり、数年後に建

て替えを完了させる計画。建て替えに併せて、「これまで以上に高精度なモノづくりを推進する」（竹中社長）方針で、高精度な最新鋭プレス機（300ト）2台を新たに導入し、既存のプレス機もオーバーホールする。高精度生産を特徴に、既存取引先からの受注拡大

や新規取引先の開拓などを目指す。本社敷地内の別の工場棟に生産設備を移して、建て替えを進める。新規の300トプレスは先月、1台を別工場棟に導入した。今月中にもう1台を追加する。設備の移設費を含む建て替え費用は約10億円の見込み。

同社は、モーター、トランス用コアで国内トップクラスのメーカーで、ハイブリッド専用モーター「気なモノ作り中小企業コアはトヨタ自動車の300社」（日本の一部車種に採用されている。このほど、中小モノ作り中小企業部企業庁の「2009元門」に選定された。



高精度な生産体制の構築を目指す城山産業（写真は本社工場）